JWIMA通信

Japan Writing Instruments Manufacturers Association

日本筆記具工業会
〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2－30－6
TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会
URL http://www.jwima.org

世界に向けて更なる高付加価値商品を

2013年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、当工業会の２回目の会長の大任をおおせつかった際に、筆記具の知的生産性向上への必要性、輸出での日本の国家戦略への寄与、世界市場に向けての高付加価値製品の発信の役割の３つの使命は今後も変わらないと申し上げました。会員の皆様方が、さらなる発展と世界レベルでの地位向上を目指して各種委員会、部会への積極的なご参画をいただいていることに多大なる感謝を申し上げます。

現在グローバル競争時代だということで、世界を見渡してみますと、むやみに他国の製品の真似をしたり、過剰な価格競争が繰り広げられております。グローバル競争というのはお互いを傷つけあうことではなく、自分達の特長をうまく活かしながら、いかに共存していくかが重要であるのではないかと思います。また国内のそれぞれの企業にも各々すばらしい特長があって、世界のお客様に対してはお互いの特長を活かして棲み分けをしていくという業界になっていけば、益々業界が発展するのではないかと思っております。

当業界の国内の状況を見てみますと、法人需要が低迷しているなか、個人需要が活況であり、昨年に引き続き堅調に推移しております。個人で文房具を買うのであれば、機能および品質に優れ、個性を主張できるような商品を求めた行動の現われであると思われます。またテレビ番組等のメディアにも多数取り上げられ、筆記具や事務用品に特化した雑誌の出版も相変わらず盛況であります。また手帳やノート市場におきましても、スマートフォン、タブレットＰＣ等のデジタルツール全盛の時代にもかかわらず、アナログ回帰の流れがあり、デザイン性や機能性に優れた商品の需要が増えている様です。また流通におきましては新しい形態の店舗や、雑貨、文房具を取り扱う新しい業態店舗の新設で、より個性を重視した売り場の提案がなされております。

一方で、国内外でのデフレの波を受け、国内でも目に余る安売り合戦が繰り広げられております。無味乾燥な価格競争だけでは何も生み出すものはなく、待っているのは疲弊だけです。今後とも業界をあげて付加価値路線を歩む取り組みを推進し、日本から世界に向けて高付加価値商品を発信していくことが必要ではないでしょうか。

エコノミストの予測によると今年は世界中で厳しい年になるというお話もあります。しかしその一方であえて変わることができるのは日本であり、日本が再評価される年になるのではないかと感じております。そういう意味でも業界の皆様で力を合わせ、健全なる勝負をしながらお互いを高めていける業界になる取り組みをして参りましょう。

筆記具工業会の会員各社に於かれましては、今まで築いてきた日本筆記具のブランド力、新製開発力、品質力をさらに強固にするためにも会員各社の活発かつ質の高い情報交換の場としての当工業会を活性化させていただきたく存じます。

今年が、文具業界関係各位ならびに会員各社にとりまして一層の飛躍の一年となりますことを心よりお祈り申し上げますと供に、本年も日本筆記具工業会にさらなるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

日本筆記具工業会　会長　数原英一郎

平成24年度 年末講演会 WBCサムライジャパン 山本浩二 監督
2012.12.5 上野精養軒にて 【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を 12 月５日上野精養軒にて開催いたしました。今回は、2013 年WBC（World Baseball Classic）日本監督の山本浩二氏を講師にお招きし、サムライジャパンチームづくりの経緯やプロ野球界にまつわるたいへん興味深いお話をいただきましたのでご紹介いたします。

本当に大変なことになりました。司会の方からご紹介ありましたように「今や時の人」だそうです。これまでWBC で日本は連覇していて３連覇も当たり前のように思われています。

９ 月に報知新聞がまだ決まっていないのに「山本浩二が監督に」という記事を書いて、それから急にあわただしくなりました。私もWBC の監督は現役監督では難しいと思っていましたので、いつ要請が来てもいいように心の準備はしていました。まだ正式に要請は来ていなかったんですけど、東尾氏に電話して、コーチとして一緒にやってくれないかと頼んだら、二つ返事で引き受けてくれることになりました。その後、９月２８日に王さんから WBC の監督をやってくれないかと言われ、相手は王さんですからね、「はい」としか言えませんでした。それから、あっという間に今日を迎えました。７月にこの会の講演を頼まれていましたので、９月以降であれば多分断っていたでしょう。

新聞やテレビで皆さんもご存知だと思いますが、昨日、代表選手３４人を発表しました。事前にメジャー選手６人にオファーしていましたが、いずれもメジャー球団の圧力により、断りの電話がありました。イチローからの辞退も想定して、その時に純血で行こうと決めました。２月１５日からの合宿まであっという間だろうし、すごくプレッシャーを感じています。打順も頭の中ではもうできていて、キャプテンで４番には阿部慎之介しかないと思っています。阿部は今、心・技・体のバランスがみごとに執れていて、シーズン後半に特にそれが表れていました。終盤で打率を３～４分上げているので、おそらくその頃は５割近く打っていたのではないかと思います。阿部選手にはすばらしい精神力、集中力があり、キャプテンとしてチームをまとめてもらいたいと、日本シリーズ中に直接要請しました。合宿やその時の調子によっても変わりますが、打順はジグザグ打線を考えています。国際試合ではなかなか点が取れないので、１点を取るために足を使った野球をし、１点を取られないために守りを重視した野球をしようと思っています。今、代表選手を３４人選んでいますが、登録できるのは２８人で、更に絞り込まなければなりません。選手はみんな代表チームでプレーしたいと思っていますから、これが悩みの種です。WBC では、日本にはこんなにいい選手がいるということを表現したいと思って

います。特に若い選手には、ライバル心を持って自分で成長してもらいたいと思っています。

法政大学時代は、田淵、富田とともに法政三羽烏と呼ばれていました。私はピッチャーから外野手に転向となり、松永監督から全体練習のあとに、それこそ毎日１０００本ノックを受けさせられました。田淵は１年生のときからスター選手でした。富田は私と同様、サードで鍛えられ、そのおかげでプロに入ることができました。

広島では、根本監督、関根コーチ、広岡コーチがいて、プロになれば楽になるだろうと考えていましたが、更に厳しい練習や指導を受けました。その頃、ライバル同期には衣笠、三村、水谷、水沼らがいて、ヤクルト、大洋といつも最下位争いをしていました。監督、コーチたちは数年後には優勝争いができるチームにしようとミーティングしていたようですが、最下位争いばかりしていると、どうしてもチームの成績より自分の成績の方が大事になってきます。当時は、衣笠とは私生活ではほとんど付き合いがありませんでした。入団６年目の昭和５０年、いつもは5月のこいのぼりの時期までは成績が良かったのですが、この年は6月、７月、８月になってもそれが落ちませんでした。９月に入ってからは、それこそ優勝争いのすごいプレッシャーを感じるようになりました。それまで、衣笠が打席に入ると、心のどこかで「打たないで」と願っていたのが、優勝争いになると自分が打てない時など「衣笠頼む、打ってくれ」という気持ちになり、そして優勝が決まった時には衣笠と抱き合って泣きました。次の年からはお互い腹を割って話し合えるようになり、「お互い頑張ろう」と思えるようになりました。それからお互いに練習にも熱が入るようになり、それを若手が見て我々が練習を終えるまで若手も頑張るようになりました。リーダーシップとは、自分の行動で周りの人たちが自然についてくることだと思います。

星野投手とは、彼が明治大学時代からのライバルで、プロに入って私がサヨナラヒットを打ってから、試合前には必ず食事をするような仲になりました。

何んと言っても集大成は、東尾投手との対決でした。日本シリーズで９回表まで０対２で広島が西武に負けていました。小早川がホームランを打って１点差に詰め寄り、私の打順となりました。東尾投手は、スライダーとシュートが得意で、一

番デッドボールを当てたピッチャーでした。シュートでバッターをのけぞらせ、そのあと外角のスライダーで打ち取るというのが得意でした。バッターの心理としては、デッドボールが怖いですから、食い込んでくるシュートの後はなかなか踏み込んで外角の球を打ちにいくことができません。その時は、「この前一緒に楽しく食事した仲だし、よもや当ててくることはないだろう」と自分に言い聞かせて、どんな球が来ても踏み込んでスライダーを仕留めるつもりでいました。その結果、みごとスライダーをホームランし、引き分け、日本シリーズ史上初の８試合目までもつれ込んだシリーズとなりました。

WBC では、よきライバルとも組んで、プレッシャーもありますが頑張りますので、みなさん応援をお願いします。

（了）

JWIMA 年末懇親会

年末講演会　第二部　2012.12. 5　上野精養軒

講演会に続き、会場を改めて年末懇親会を開催いたしました。来賓に経済産業省日用品室様、㈳全日本文具協会様をお迎えし、また、文具専門紙誌様やご講演いただいた山本浩二監督にもご出席いただき、会場は忘年会にふさわしく華やぎました。

【数原会長挨拶】

あと数週間で新しい年を迎える大変ご多用なところ、日本筆記具工業会の懇親会にお運びいただき、誠にありがとうございます。

平素大変お世話になっております経済産業省の多田室長はじめ多くの方においでいただき、ありがとうございます。また、日本でもっとも忙しい人のひとりである、侍ジャパンの山本浩二監督にもお越しいただきありがとうございます。

監督よりこのような話を聞くのは初めてでしたが、野球を天才的な才能でやられているだけではなく、その上に大変な努力をされ今日があるのだと思い、私達ももっと頑張らなければならないという勇気をいただいた気が致します。そういった方が侍ジャパンの監督に選ばれたのだと確信をいたしました。ぜひメイドインジャパンの野球として活躍されることを心からお祈りしております。

さて、話しは変わりますが、東大寺には二月堂がございますが、そこに書家の榊莫山氏の「百花百香」という書が掛けられておりますが、「百花百香」とは、おそらく各々の花には各々の香りがあるということで、人それぞれに持ち味がある。ということを意味しているのではないかと私は解釈しております。

現在グローバル競争時代だということで、むやみに他国の真似をしたり安売り合戦をしたりしておりますが、やはり日本には日本の良さがあり、それぞれの国にはそれぞれの良さがあるのだと思います。グローバル競争というのは、お互いを傷つけあうことではなく、自分の特長をうまく生かして、いかに共存していくか、棲み分けていくかということであるのではないかと思います。また国内の中でも、それぞれの企業の特長があってこそ、様々な花が咲き誇っている美しい花畑になっていくのだと思います。そのように考えると、メイドインジャパンの誇りを持って野球を行うことと同じように、メイドインジャパンの筆記具の誇りを持ってそれに相応しいものづくりをし、世界の皆さんに向けては棲み分けをしていくという業界になっていけば、益々業界が発展するのではないかと思っております。そういう気持ちを持って、ぜひ新しい年を迎えたいと思っております。

エコノミストの予測によると来年は厳しい年になるという話しもありますが、その一方、消去法でいくと、世界中で厳しい中、あえて変わることができるのは日本なのではないか、日本が再評価される年になるのではないかという気がいたしております。そういう意味で、業界みなさんで力を合わせ、健全なる勝負をしながらお互いを高めていける業界になっていきたいと思います。

最後になりましたが、皆様方がすばらしい年をお迎えになられますこと、会社の発展を心よりお祈り申し上げましてご挨拶といたします。本日はおいでをいただきまして、ありがとうございました。

（了）

ご来賓代表／多田日用品室長

乾杯／石川副会長

中締め／和田副会長

平成 24 年　第 4 四半期　委員会・部会活動

＜調査研究・広報 関係＞

11．28　調査研究・広報委員会（平成 24 年度 第 5 回）
- 新・技術交流会コンセプト案について
- その他

＜流通 関係＞

12．14　流通委員会（平成 24 年度 第１回）
- H24 文具流通諸問題について（意見交換）
- お客様相談窓口連絡会活動状況報告について
- その他

12．20　お客様相談窓口連絡会（平成 24 年度 第 5 回）
- 各社のお客様対応事例について
- お役立ち情報（ｼｬｰﾌﾟﾍﾟﾝｼﾙ編）の見直しについて
- その他

＜技術国際 関係＞

11．20　製品安全小委員会（平成 24 年度 第 3 回）
- EWIMA 技術委員会（2012.10.10）報告
- 安全関連情報について
- 筆記具安全基準について
- その他

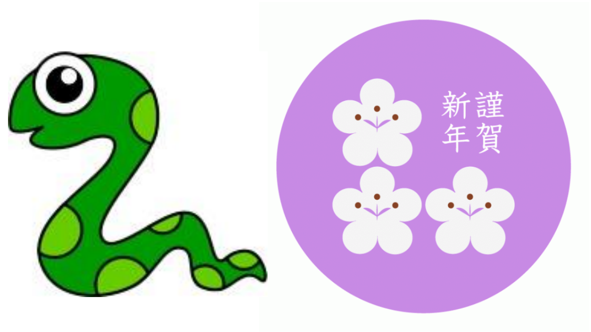
11．21　シャープペンシル部会（平成 24 年度第 2 回）
- JIS S 6013 の改正について
- ISO 9177-1,-2,-3 に対する改正提案の検討
- その他

12．11　FprEN71-3 勉強会
- 資料読み合わせ
- 意見交換
- その他

＜全文協との共催 関係＞

11．14　三団体知的財産権交流会

お知らせ



●平成25年　第12回通常総会

第１２回通常総会の日程が決まりました。

日時　平成２５年５月２０日（月）17:00～

場所　上野精養軒にて

※今からどうぞご予定ください。

●JIS 改正版発行

JIS S 6055（事務用修正液）の改正手続きが完了し、間もなく 2013 年版が発行となります。公示日（発売日）は 2 月 20 日の予定です。

また、JIS S 6005（シャープペンシル用しん）と JIS S 6006（鉛筆、色鉛筆及びそれらに用いるしん）についても間もなく追補版が発行される予定です。

内容としては、しん濃度試験機の新機種に対応できるように、スポット径を従来の“4mm”から“3.4mm～4.0mm” に変更しています。あとは、引用規格の年指定を外し最新版を引用するようにしました。

●ドイツの筆記具統計 2011 発行

昨年 12 月にドイツの筆記具統計 2011 を発行いたしました。ドイツにある EWIMA（欧州筆記具工業会）ならびにドイツ鉛筆協会の事務局とは毎年筆記具統計データの交換を行っており、JWIMA で翻訳整理を行っています。会員各位には年末に送付済み。資料は、まだ少し在庫に余裕がありますので、希望される方は事務局へお申し出ください。